

空き家・公共空間活用事例見学会を実施しました！ (視察先:東京都世田谷区)

◆目的

空き家・公共空間の活用について、東京都世田谷区の「一般財団法人世田谷トラストまちづくり」では、「地域共生のいえ」や「空き家等地域貢献活用」といった先進的な取り組みを行っており、多くの団体がその支援を受けながら活発な活動に取り組んでいます。

本市における第2回目の民間支援まちづくりファンドの募集にあたり、世田谷区の先進事例を学び、市民及び行政職員の空き家や活用及び起業に対するイメージを具体化することを目的に見学会を実施しました。

当日は、市民・職員計14名が参加し、各施設では、オーナー・運営者から、設置の経緯・運営体制などの説明など、空き家活用や起業にあたってのアドバイスをいただきました。

◆実施概要

日時：平成28年10月12日(水) 8:30~18:30

参加人数：14名(市民・職員)

視察先：東京都世田谷区内の4施設(視察順)

| | 施設名 | 活動内容 |
|---|-----------|---------------------|
| 1 | 岡さんの家TOMO | 地域のコミュニティスペース |
| 2 | 楽ちゃん堂CAFE | コミュニティカフェ・児童預かり |
| 3 | タガヤセ大蔵 | デイサービス・地域コミュニティ拠点 |
| 4 | シェア奥沢 | 地域のコミュニティスペース・ギャラリー |



岡さんの家TOMO



楽ちゃん堂CAFE



タガヤセ大蔵



シェア奥沢

岡さんの家TOMO

オーナー：小池 良実 氏
コンセプト：まちのお茶の間
運営：オーナー、トラストまちづくり大学OB、
大学生、地域の人々

オーナーの大叔母である岡ちとせさんは、生前、英語やピアノを子供たちに教えながら、暮らしていました。

「地域の方や子どもたちのために、この家を役立ててほしい」という岡さんの思いを受け継ぎ、（一財）世田谷トラストまちづくり支援事業「地域共生のいえ」としてオープンしました。

子どもは駄菓子を買いに、子連れのママたちは憩に、水彩画や鉄道など様々な趣味を持つ人たちは語りに、それぞれ気軽に集まります。

運営は、トラストまちづくり大学の受講生や大学生などで構成される「見守り隊員」がボランティアで行っています。



昭和の温かさを感じるレトロな外観



オーナーからのアドバイス。「組織の機動力を見極めて、無理のない運営を。」

楽ちん堂カフェ

オーナー：森田 清子 氏
コンセプト：地域の人々が集う“みんなの家”
運営：NPO法人ら・ら・ら

かつて舞台興行を行っていた森田夫妻が、公演の度にやってきた料理と保育を、地域での新たな仕事にしたいと考え、民間児童預かり事業をきっかけに、地域の方に開かれた“みんなの家”にしたいという思いから平成25年にコミュニティカフェ「楽ちん堂」をオープンしました。

カフェの運営と近隣企業へのお弁当の宅配を主な収入源とし、平成26年には障害をもつ子どもたちの放課後デイサービス「イクツアルポック」を開所するなど、学童保育やレンタルスペース、演劇ワークショップなど、地域の人たちの繋がりがどんどん広がり、多種多様なコミュニティスペースとなる場所を提供しています。



放課後デイサービス「イクツアルポック」



高齢者の運営するコミュニティサロン「せめてしゅういち」も人気。

タガヤセ大蔵

オーナー：安藤 勝信 氏
コンセプト：住宅のような地域の寄合所
運営：（福）大三島育徳会

木造賃貸アパートの老朽化に伴い、アパートの「空室」と祖父の「介護」をリノベーションで解決できないか検討したことをきっかけに、建築士や福祉法人とプロジェクトチームを立ち上げ、デイサービスでありながら、住宅のような空間づくりの施設が完成しました。1階は「タガヤセ大蔵」、2階は賃貸住宅として利用中です。

タガヤセ大蔵では、「認知症カフェ」を開催しており、デイサービス利用者だけでなく、自宅で介護する家族や他の福祉施設で働く関係者などの「介護のプレイヤー」が気軽に立ち寄り、互いに繋がる機会を提供しています。

また、1階スペースの賃借料については、収益に応じた変動制とするなど、継続的な事業が行われるよう配慮されています。



外観は、アパートそのもの



内観は、開放的な空間を演出している。

シェア奥沢

オーナー：堀内 正弘 氏
コンセプト：共通の関心事から生まれる交流の場
運営：オーナー

多摩美術大のデザイン学科教授であり、都市設計の建築家であるオーナーは、都市づくりにおけるコミュニケーションデザインを研究テーマの一つにしています。

教え子たちが自宅の空き部屋を製作に使い始めたことをきっかけに、「地域共生のいえ」として、開放することを始めました。

シェア奥沢の利用者は、「アート」、「ものづくり」、「コワーキング」を中心に、活用されることが多く、これまでに利用者が企画したイベントで、参加者が同士が意気投合し、新たなテーマのイベントが企画され、継続して多様なイベントが企画されています。

今後は、シェア奥沢に「SHARE HUB」（拠点）としての機能を持たせ、近隣の空き家を管理し、地域住民が気軽に活用できるスペースとして提供するシステムの実現化を目指しているそうです。



昭和8年に建てられた家屋



古民家の風合いを残したデザインだからこそ、リラックスして訪れることができる。